日本沙漠学会ニュース

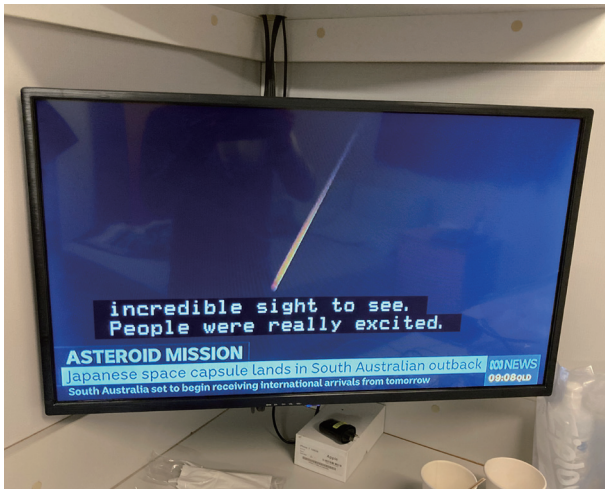
OASIS 30(3)2020
〔No.112 December 2020〕
News and Communications of
The Japanese Association for
Arid Land Studies

おあしす

2020 年 12 月，はやぶさ 2 からの帰還カプセル回収ミッションに光電チームの一員として参加しました．その際に撮影したオーストラリア・ウーメラ砂漠の風景を中心とした写真です．

ウーメラ砂漠に放牧されている羊たち

夕暮れをバックにレーダーと私



カプセル再突入についての現地 TV 報道

12 月 5 日深夜の星空と光電レーダー

Kanku-Breakaways 保護区

Alligator gorge の渓谷

（写真提供：箭内多聞）

日本沙漠学会 2021 年　第 32 回学術大会のお知らせ（第二報）

新型コロナウイルス感染症の影響下で，ベストな大会開催方法について模索してきましたが，当初計画した北海道（酪農学園大学）での開催は困難であると判断し，今年度はオンラインでの学術大会実施とさせていただきます．北海道大会は次年度以降の開催に順延いたします．

日本沙漠学会 2021 年 第 32 回学術大会 オンライン研究発表会

1．大会予定概要

【開催日時】2021 年 5 月 29 日（土）～30 日（日）
【発表】オンライン開催
オンラインによる【口頭発表（10 分）】または【ポスター発表（ショートプレゼンテーション 5 分）】
【申込締切り】2021 年 3 月 15 日（月）
【発表者参加費】一般 2,000 円；学生 1,000 円（支払方法は追ってご連絡いたします）

2．研究発表申し込み

【発表申込 Web ページ】https://www.jaals.net/大会 - シンポジウム/2021- 大会 - シンポジウム/
【口頭発表】Web による口頭発表
【ポスター発表（ショートプレゼンテーション）】Web によるポスター掲載および 5 分程度のショートプレゼンテーション
発表形式は口頭もしくはポスターのいずれかとします．なお，申込者数・発表時間の都合により，調整させていただく事がありますので，あらかじめご了承ください．
申し込まれた方には，講演要旨の様式・発表時間・参加費支払い方法等をお知らせします．

3．参加申し込み（総会出欠確認）

【参加申込】後日お知らせいたします
会員の方すべてにご回答いただくことになります．

4．事務局

第 32 回　日本沙漠学会学術大会実行委員会　事務局
E-mail：jaals2021a@gmail.com
大会委員長：小長谷有紀（企画担当理事）
詳細はホームページ　https://www.jaals.net/　をご覧ください．

日本沙漠学会 2021 年　第 32 回学術大会におけるベストポスター賞について

日本沙漠学会では，学術大会においてポスター発表をする若手会員を対象に，内規第 11 条に基づいてベストポスター賞を設けています．若手会員は，ぜひチャレンジしてください．なおベストポスター賞の授賞式は，学術大会の閉会式にて執り行う予定です．

第 11 条　学術大会ベストポスター賞に関する内規（抜粋）

(2) 受賞候補者は原則として，当該年度において満 35 歳以下の発表者とし学部生，大学院生と大学院修了・中退後 3 年未満の者などとする．なお受賞候補者は，会員で，かつポスターの説明者とし，第一著者でなくてもよい．さらに，当該年度において 36 歳以上の会員が受賞候補者としての選考を希望する場合には，その理由書を学会賞審査委員会（以下，審査委員会）（幹事）宛に郵送してなければならない．

(3) 対象分野

本賞の対象分野は理系，複合系からそれぞれ 1 件を選出する．選考対象の発表がない場合は該当なしとする．なお，受賞候補該当者は，発表申込時に，どの系での審査を希望するか明記することとする．

(4) 審査方法

・採点者は，以下の 2 項目について採点する．

a. 研究内容（目的・意義，研究方法，結果・考察，成果，発展性など）

b. ポスター表現とポスターを用いての説明技術，熱意など

問い合わせ先：

日本沙漠学会　総務委員／学会賞審査委員　E-mail : jaals@kyouritsu-online.co.jp

学会賞審査委員からのお知らせ

日本沙漠学会若手会員のみなさんへ

学会賞担当理事　渡邉 三津子
的場 泰信

日本沙漠学会では 「奨励賞」「ベストポスター賞」など、若手研究者のみなさんを対象とした賞を設けています。

奨励賞

- 乾燥・半乾燥地に関する萌芽的研究業績を挙げた会員に授与されます。※ 『沙漠研究』に掲載された論文や研究業績に基づき、学会員の推薦を受けて審査されます。
- 満35歳以下の若手会員を対象としています。※ 社会人経験者など「若手相当」とみなされる方は満35歳以上であっても対象となります。

ベストポスター賞

- 研究内容、表現や説明技術、熱意などが優れているポスター発表に対して授与されます。
- 学術大会でポスター発表をする満35歳以下の学部生、大学院生と大学院修了・ 中退後3 年未満の会員が対象となります。※ 社会人経験者など「若手相当」とみなされる方は満35歳以上であっても対象となります。

メリット① 自分の研究について知ってもらえる

受賞者の研究は、学術大会だけでなくホームページなどで紹介されるので自分の研究について多くの人に知ってもらえる機会になります。

メリット② 履歴書に書ける

「奨励賞」「ベストポスター賞」をもらったら、履歴書の賞罰の欄に書くことができるので、就職活動にも役立ちます。

日本沙漠学会に所属する若手会員の皆さん
全員にチャンスがあります！

学術大会で発表した人は、ぜひ
沙漠研究に論文を投稿しましょう！

【問い合わせ先】日本沙漠学会 学会賞審査委員／E-mail：jaals@kyouritsu-online.co.jp

秋季シンポジウム開催報告

「今，沙漠環境はどうなっているの？
～拡大それとも改善？　気候変動は？　サバクトビバッタは？　経済へのかかわりは？」

● 主催：日本沙漠学会　乾燥地農学分科会
● 日時：2020 年 11 月 26 日（木曜日）12：00～16：40（受付 11：30～）
● 会場：北とぴあ・つつじホール　（東京都北区王子 1-11-1　北とぴあ 3 階）

★ 12：00－12：05　開会の辞　森尾　貴広 氏（日本沙漠学会会長）
★ 12：05－12：25　講師　石川　祐一 氏（秋田県大生物資源科学部　准教授）
★ 12：25－13：05　講師　木村　玲二 氏（鳥取大学乾燥地研究センター　准教授）
★ 13：05－13：45　講師　鬼頭　昭雄 氏（(一財) 気候業務支援センター　研究員, 元気象庁気象研究所　部長）
★ 14：00－14：40　講師　田中　誠二 氏（元蚕糸・昆虫農業技術研究所　研究室長）
★ 14：40－15：20　講師　浦嶋　裕子 氏（MS&AD インシュアランスグループホールディングス　課長）
★ 15：35－16：35　全体討論
モデレーター　石川　祐一 氏（秋田県立大学生物資源科学部　准教授）
パネラー　木村　玲二 氏，鬼頭　昭雄 氏，田中　誠二 氏，浦嶋　裕子 氏
★ 16：35－16：40　閉会の辞　平賀　義彦 氏（日本沙漠学会乾燥地農学分科会副会長）

＜報告＞

日本沙漠学会乾燥地農学分科会会長
石川　祐一

2020 年 11 月 26 日（木）に東京都北区王子にある北とぴあ 3 階つつじホールにて，日本沙漠学会秋季シンポジウムを開催した．例年，乾燥地農学分科会が行っている講演会との共催である．新型コロナウィルス拡大の影響で，例年利用してきた東京大学中島薫一郎記念ホールが使えず，開催 2 ヶ月前に急遽北とぴあへの会場変更となった．

本シンポジウムは「今，沙漠環境はどうなっているの？　拡大それとも改善？　気候変動は？　サバクトビバッタは？　経済へのかかわりは？」と題して行われた．気候変動や環境変化を研究する先生方をお招きし，専門分野の現状を知る機会にするとともに，それらが自然環境・社会活動に及ぼす影響を踏まえて，SDGs に含まれる沙漠化をどのように捉えどのように対処すべきか議論する場にしたいと考えた．

講演に先立ち，石川から「本講演会の開催趣旨について」と題して，趣旨説明を行った．

鳥取大学乾燥地研究センター准教授の木村玲二講師は，「乾燥地の土地劣化の現状と監視」と題して，衛星画像データを基に地温の日較差を利用した指標の提唱とその指標を利用した推定では沙漠化面積は地球規模で減少していることを紹介いただいた．

一般財団法人気象業務支援センター研究員鬼頭昭雄講師は，「気候変動の現状と将来」と題して，CO_2 高排出シナリオでは乾燥地の面積が拡大する恐れがあること，気温上昇を 2℃以内に抑えるためには今後 10 年以内にゼロエミッションを越えた負の排出にシフトする必要があることを示された．

元農林水産省蚕糸・昆虫農業技術研究所研究室長田中誠二講師は，「サバクトビバッタの大発生と生態」と題して，温暖化に伴う植生の変化や局地的な大雨の発生がサバクトビバッタの大発生に影響を及ぼす可能性があることに加えて，このバッタが群生相へと変異する生態についても紹介いただいた．

MS&AD インシュアランスグループホールディングス課長浦嶋裕子講師は，「気候変動リスクに金融の世界はどう向き合っているか」と題して，気候変動を折り込んだ ESG 投資の発展や気候関連財務情報開示タスクフォースといった金融業界の現在の動きと，気候変動リスクの定量評価を進める動きを紹介いただいた．

シンポジウムは大学，研究所，メーカー，コンサルタント，ゼネコン等の多岐に渡る分野から参加があったものの，新型コロナウィルスの第 3 波拡大局面にも関わらず対面での開催としたため，30 名の参加にとどまった．

会場の都合で十分なパネルディスカッションの時間が取れず，質問への回答が中心になってしまったが，気候変動を踏まえた沙漠化監視や沙漠化対処，生物多様性や企業活動を折り込んだ SDGs 活動など，これからの沙漠研究につ

ながる貴重な示唆が得られたと思う．

ご講演いただいた講師の先生方，ならびにご参加いただいた皆さまに感謝申し上げたい．

写真左から石川，木村玲二講師，鬼頭昭雄講師，田中誠二講師，浦嶋裕子講師（記念撮影のためマスクは外している）

なお，講演要旨は残部があるので，連絡いただければ送料のみで配布可能である．yu_ishikawa@akita-pu.ac.jp まで連絡をお願いいたします．

学会記事

日本沙漠学会第 146 回理事会　議事録

日　時：2020 年 10 月 10 日（土）14：00～16：00

場　所：Web 会議

出　席：森尾貴広（会長），鈴木伸治，田中徹（以上，副会長），渡邉文雄，豊田裕道（以上，監事），矢沢勇樹，小島紀徳，小長谷有紀，石川祐一，渡邊三津子，的場泰信，田島淳，島田沢彦（以上，理事），安部征雄，森卓（以上，顧問）
酒井裕司（副編集委員長），真田篤史，篠原卓（以上，総務委員），齋藤哲治（事務局）

委任状：川端良子

議　題：

Ⅰ．審議事項

1．沙漠学事典の印税の配分について（審議）

・森尾会長から沙漠学事典の印税の配分案について説明された．審議の結果，非会員に対する印税は1ページあたり 2,000 円とすることで承認された．

・渡邉（文）監事から，執筆時に非会員で今後入会した場合，印税を受け取れるかどうか質問があった．森尾会長から，印税の受取資格は執筆時の条件に基づいているため，今後入会した場合でも受け取れることが説明された．

2．沙漠研究オンライン化にともなう購読会員および賛助会員への対応

・矢沢理事から購読会員および賛助会員への対応について説明された．

・現在，購読会員は 5 機関，賛助会員は 4 機関である．

・両会員に対し，オンライン化に関する連絡はまだ行っていないため，会長名義で早急に説明することとなった．購読会員にとっては，オンライン化は大きな変化であり，契約継続の有無も含めて確認する．

・矢沢理事から，合本に伴うトータルページ数の変更により 1 冊単価の変化（減少）が指摘されたが，事務局・齋藤氏からコンテンツは変更ないとの説明があり，年会費の変更はしない（1 万円）予定である．

・矢沢理事から，広報の意味合いも含めて購読会員に沙漠学事典を寄贈し，図書館などに置いてもらう案が出されたが，渡邉（文）監事から購読会員は会費を支払っており，それは雑誌に対する対価であるため沙漠学事典を寄贈する必要はないという意見があった．議論の結果，購読会員には寄贈しないが，会員割引で購入可能であることを説明することとなった．

Ⅱ．報告事項

1．新体制（各委員会委員）の Web ページ上のアナウンスについて

・新規委員の情報を含めた新体制が確定したため，Web ページへ掲載する．

・会長からのメッセージについても掲載する．

2．2020 年度秋季シンポジウムについて（11/26）

・石川理事から，乾燥地農学分科会と合同で，11 月 26 日（木）12 時～16 時 40 分の日程で開催することが説明された．

・場所は北とぴあ・つつじホール（東京都北区）で，会場定員は 400 名のため密を避けながら対面での開催が可能である．

・内容は沙漠化と気候変動についてで，損害補償など経済面からの環境問題への取り組みについても講演に含まれる．

・今回から，オアシスとポスターに加えて，企画者側の意図を明確に示すため，資料を作成して HP 掲載する．

・要旨集は無料で配布予定である．

・会場費が少し高くなる 10 万のうち 6 万，要旨は 3 万，あとは交通費など

・森尾会長から感染対策について質問があった．石川理事から，会場の使用条件として体温測定と手指消毒が必須であるため，それを徹底するとともにマスクの着用についても案内文に記載することが説明された．

3．2021 年度学術大会：酪農学園大学

・島田理事から，対面での開催を見据えつつ，必要に応じてオンライン開催も可能なように準備を進めることが報告された．

・開催候補日は 5 月 29，30 日が提案され，理事からの承認を得た．

・開催方法の決定は 3 月末とし，それまでは可能な範囲でオンライン開催の計画も同時に行う．

・9 月のオアシスで，日程，開催地，実行委員長や問い合わせ先（gmail 開設）などを記載するために，酪農学園大学・星野先生と文案等の確認を行う．

4．「沙漠学事典（英語版）」出版の凍結について

・石川理事から，「沙漠学事典（英語版）」出版の企画や現在中断している経緯について説明された．
また，出版に際しては 100 万円程度の費用が必要となることや，編集権や翻訳権は丸善が所持するため単純な英訳での出版ではなく目次の組み直しなどが必要であることなど，速やかな再開が困難であることも説明された．

・森尾会長から，ここ 1, 2 年での再開は困難なものの，数年後には仕切り直して再開する案が示され，理事の承諾を得た．

5．新型コロナの影響把握アンケート結果について

・石川理事から，アンケート結果は 9 月のオアシスに掲載予定であることが説明された．なお，オンラインで 7 月 22 日から 8 月 31 日までアンケートを行った結果，現在までに 33 人から回答があった．

・小長谷理事から，国際学会が開催しやすくなったというような望ましい方向に変化したことをピックアップして共有するべきであると提案があった．

6．2021/9　DT-XIV（ICAL-4）の進捗について

・森尾会長から DT14 の進捗状況について説明された．

・開催場所は静岡県から東京都に変更され，現在は対面とオンラインの併用か完全オンラインで開催する方向で検討されている．

・参加費は基本的には発表者からのみ徴収し，聴講のみの参加者は無料とするが，海外からの参加者が日本に来る場合はインビテーションレター作成のための費用を請求する．

・資料の内容については川端先生が IDC メンバーに諮っており，9 月 30 日に承認されている．

・渡邊（三）理事からオンライン開催にあたっての各種懸念（時差，発表方法など）が示された．

7．投稿論文審査状況報告

・酒井副編集委員長から，投稿論文の審査および受付の状況，review の進捗状況について報告された．
現在査読中の論文は原著論文 3 本，展望論文 1 本
Review については今後も編集委員長から執筆依頼を継続する．

・拡大編集委員会は，次回の理事会後に開催予定である．

・編集委員には，雑誌のレベル向上のためにも海外の研究者を含めた方が良いため，現在 2 名の外国人研究者が含まれている．

8．おあしす 30-2
表紙写真・学会賞推薦・学会記事・大会アナウンス
【総務・事務局】

・島田理事から表紙写真の寄稿依頼があり，森尾会長が寄稿することで決定した．

・渡邊（三）理事から学会賞推薦の連絡先について，現状ではメールアドレスが記載されているが，内規では郵送となっていることについて指摘があった．森尾会長から，メールでも連絡可能なように修正するよう依頼があった．また渡邉（文）監事から内規を確認し，現状との齟齬をなくすよう改定するよう助言があった．

・今回は事務局の住所を記載して事務局気付とし，今後の理事会で電子媒体での提出も可能となるよう改定する．

9．地理学連合運営役員について

・島田理事から毎年 1 名役員を輩出していることが説明され，今年度は島田理事が担当する．

10．その他
なし

Ⅲ．その他

1．日本学術会議の緊急声明について

・森尾会長から，日本学術会議の任命拒否の事態に関し，日本地球惑星科学連合その他関連学協会との緊急声明の発出について状況が説明された．理事会判断としては本件に賛同する方向でまとまっているが，学会判断としては議論が尽くされていないため，どの名義にて声明に賛同するかを議論する必要があると説明された．

・日本学術会議の声明に対する賛否や，学会としてどの名義で声明を発出するべきかなど，多くの意見が出たが，議論の結果理事会名で賛同する意思を連絡し，それが通らなければ賛同を引き下げることとなった．

2．今後の学術大会・シンポジウムの日程・開催地および開催形式の確認

・以下の通り，実施予定あるいは検討中である．
2020 年度大会公開シンポジウム：今年度の開催は見送り
今後開催が決まったら HP 等で案内
2020 年度共催秋季シンポジウム「乾燥地農学分科会」：11 月 26 日に北とぴあにて開催
2021 年度学術大会：酪農学園大学
2021 年 9 月 DT-XIV（ICAL-4）：Web 開催
2022 年度学術大会：宮崎大学

3．Web ページコンテンツについて

・現在検討中である．

4．「沙漠学事典」書評について

・日本リモートセンシング学会と，日本写真測量学会に依頼し，承諾を得た．

・丸善から，この 2 学会に事典を謹呈した．

5．「砂漠考」書評（おあしす）

・2021 年 1 月に延期する．

6．巻頭言について（編集委員）

・Jstage への掲載の有無，合本への掲載の有無について，川端委員長に確認する．

・合本へは，はじめに 1 回のみ掲載する方向で検討する．

7．第 147 回理事会は，2021 年 1 月 9 日（土）14：00～16：00 に Zoom で開催予定．

＊ ＊ ＊ ＊ ＊ 会 員 動 向 ＊ ＊ ＊ ＊ ＊

●新入会員

正会員

西岡　　淳（ID：1147，帝京大学）

入江　彰昭（ID：1148，東京農業大学）

●退会会員

正会員

林　　聖蕾

中里　大輔

松井　佳世

康　　峪梅

中村　　徹

三原真智人

白石　雅美

賛助会員・団体会員名簿

アースアンドヒューマンコーポレーション	194-0041	町田市玉川学園 8-3-23	Tel：042-710-7661
株式会社ウイジン	158-0097	世田谷区用賀 2-12-14	Tel：03-3700-0531
NTC インターナショナル株式会社	136-0071	東京都江東区亀戸 1-42-20	Tel：03-6892-3401
株式会社大林組技術研究所	204-8558	清瀬市下清戸 4-640	Tel：0424-95-1060